

## 発刊を祝して



本県の農村医療組合運動は、先輩高島開作、森丘正唯、麻生正蔵氏らの熱意と努力が実を結び、昭和11年10月、全国に先んじて産業組合高岡病院が設立、開業されるという輝かしい歴史をもって今日に及んでおります。

戦後の日本経済の発展はめざましいものがあり、このことは農村においても例外でなく、農業にも土地改良を基盤として多くの動力機械や農薬が導入され、また、農村生活の中にも多くの家庭電気器具などが使われるなど、農業の型や暮らしをいちぢるしく改善いたしました。しかしこのような「近代化」「都市化」のなかで、若い生産年齢層の都市への流出は農村人口の年齢構成を変え、その「人手不足」が中高年齢層に移るとともにその担い手が婦人になるなど、幾多の問題を見出すことができます。とりわけ農村婦人の健康管理を今後どのように進めるかは最大の課題であると考えます。日常の家事育児による疲労に加えて、農業機械の操作や自動車による災害、また近年とみに使用量の増えた農薬による危害など健康状態については深い注意を払わねばなりません。

私は日頃より時代に既応した所得と生計を維持発展させるためには、農業と工業との一体的融合による「工村」の建設をはからなければならないと考えておりますが、その基礎はなんといっても農民の健康を守ることだとおもいます。こういう考え方で、私の知事在任中「農村医学総合研究所」（仮称）を農協高岡病院に設置するための必要な調査費を県予算に計上したのでありますが、この構想が、このたび「富山県農村医学研究会」として発足されましたことはまことに意義の深いことであり、また、これが役割を十分に果たされるため研究会誌を発行されますことは大変喜ばしいことであります。

この会誌が本県農業とともに発展し、農民とともに健康な成長を遂げられるよう祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

昭和45年3月

富山県農業協同組合中央会長

吉 田 実